本マニュアルは、文部科学省による平成20年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の委託を受けて作成されたものです。

放課後子ども教室の運営を支える ボランティア養成事業運営マニュアル

ボランティア養成講習会講師のためのガイドブック～展開法～

RECREATION

財団法人　日本レクリエーション協会

も ★ く ★ じ

◆ 受講者のその気を引き出す講師の留意点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

◆『子どもを支える遊びボランティアのススメ（ボランティア養成講習会テキスト）』を
活用した講義展開マニュアル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

◆「見守りボランティア」、「趣味活用ボランティア」養成講習会内容＜１コマ目＞ ・・・ 5 ～ 7

◆「見守りボランティア」養成講習会内容＜２コマ目＞ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8 ～ 10

◆「趣味活用ボランティア」養成講習会内容＜２コマ目＞ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・11 ～ 13

◆ 勉強会の進め方 ・・14 ～ 15

受講者のその気を引き出す講師の留意点

ボランティア養成講座は、見守りボランティアコースにしろ、趣味活用ボランティアコースにしろ、早く現場にたって、遊びを通して、子どもたちとふれ合ってみたい、豊かな体験を提供してみたいという気持ちになってもらうことがゴールです。

講師には、ボランティアとしてデビューすることへの不安を解消し、こういうことならできるという期待や自信を持ってもらうことに創意工夫を発揮することが期待されます。

例えば、子どもたちとより添い交流の喜びを味わえる遊びの展開を、受講生が自分もやってみたいと思えるように教え、伝えること。自分の趣味をこのように工夫すれば、子どもたちに豊かな体験を提供できそうだという自信を受講生に持ってもらうこと。

講師が展開するいわゆる「名人芸を見て習え」では、こうした期待に応えることはできません。期待に応えるための留意点は２つ。

ひとつは、**「見せて（実感させて）→振り返り説明し→試させて身につけてもらう」という講師術。**

二つ目は、**受講者がボランティアとして活用できる難易度で現場にあった遊びを使うといった「教材選び」。**

この２つの留意点を踏まえて、次のような流れ、手順を基本に講習を展開することで、期待される講師としての役割を果たしやすくなります。

<1> ふさわしい教材として選んだ遊びを講師が丁寧に展開してみせる（例えば受講生を対象者に見立てて）。

<2> そして、どのようにして交流の喜びを味わえるように、あるいは豊かな体験を提供できるようにその遊びを展開したのか（講師が何をどのように気をつけ行いながら遊びを展開したのか）を振り返り説明する。

<3> さらに、同じ遊びをお題に、説明を受けたコツを踏まえて、受講者同士で、時には展開役、時には対象者役になって試してみる。

こうした一連の流れ、手順を基本にすることで、遊びを展開してみせる自分の表情、言葉、動きのひとつひとつが、受講生の見本（現場で活躍する自分の姿）になること。見せるだけでなく、文字などの資料であとから振り返られるようにしておくこと。こうした資料を使って、なぜ、その遊びを通して、ふれあいを楽しめたり、体験の喜びを感じられるのか、ポイントをしっかり伝える。そして、受講者同士で試した時には、伝えたポイントについての評価、助言を行う。こうした配慮も、期待に応えるための講師術です。

『子どもを支える遊びボランティアのススメ（ボランティア養成講習会テキスト）』を活用した講義展開マニュアル

本マニュアルの P5 ～ P15 は、別冊のボランティア養成講習会テキスト『子どもを支える遊びボランティアのススメ』を活用した「見守りボランティア」及び「趣味活用ボランティア」の育成講習会の講義展開案を整理しております。
講習会講師及びスタッフ（講師のサポート役等）と内容をご確認いただき、別冊のテキストと合わせてご活用下さい。

ボランティア講習会の研修内容とテキストの組み合わせ

マニュアル	テキスト	見 守 り	趣味活用
P5～P7	第1章・第2章	○	○
P8～P10	第3章	○	×
P11～P13	第4章	×	○
P14～P15	―	○	○

「見守りボランティア」、「趣味活用ボランティア」の講習は、いずれも 2 コマで構成され、1 コマの時間は 2 時間程度を標準としています（途中休憩を含む）。

1 コマ目は 2 タイプとも共通して学習していただき、2 コマ目はそれぞれ異なる学習内容となります。なお、勉強会の学習内容は、2 コマの学習を受けた後の現場体験を振り返りながら、講習内容のクリニックを中心に実施します。

本書は講師及び講師補助スタッフの皆さんにご活用いただくマニュアルです。次ページからは、育成するボランティアのタイプ別に、「学習するコマのねらい」、「講義の焦点」、「コマの構成」、「講義の展開例」に分けて整理しております。

実際の講義では、運営マニュアルは講師の指導案の原案としてご活用いただき、テキスト及び演習ノートのみ講習会受講者にお渡し下さい。

「見守りボランティア」、「趣味活用ボランティア」養成講習会内容 <1コマ目>

子どもたちの応援ボランティアの基礎知識

1. コマのねらい

※１は、このコマを通して受講生達ができるようになっていることや、このコマでの受講生の到達点を示しています（以下同じ）

○子どもの居場所づくりの意義と、ボランティアへの期待、ボランティアに求められる姿勢を理解する

○ボランティアとしてどのように活躍するのかについて、具体的なイメージを持つ
・見守りボランティアとして活躍している自分の姿
・趣味提供ボランティアとして活躍している自分の姿

2. 講義の焦点

※２は、このコマで必ず身につけてもらう知識、技術（最重要の学習内容）を示しています（以下同じ）。

①子ども達が、安心感や親近感、居場所感を感じられるような、ボランティアの姿勢、子ども達への接し方
②ボランティアとして子ども達の様子を把握するための視点や、把握した問題等への対処の基本的な手順

3. コマの構成

※３は、講義の焦点等を踏まえ、大きくどのような柱立てと時間配分で講義を進めるかについて示しています（以下同じ）

【1】活躍の舞台となる子どもの居場所の理解
・テキスト１章１～３や独自の放課後子ども教室等の資料を用いる
・時間は 10 ～ 20 分程度に抑えたい。養成講座の別の機会、現場デビューも踏まえた勉強会等で理解を深める
・子どもの居場所の意義とデビューする現場の様子を受講者で共有する

【2】ボランティアにもとめられる役割と良好な関係づくり

・テキスト２章１、２や子どもとのコミュニケーションづくりに役立つ独自資料を用いる
・時間は、40～50分程度を目安に。本時のもっとも中心となる内容
・ロールプレイや遊びを使った実験（コミュニケーション促進の試行）等を通して実感的、体験的な理解を促し、会話や遊びを仲立ちにしてコミュニケーションを成立させられるという見通し
・自信を持たせる

【3】子どもをとらえる視点と基本的な対応

・テキスト２章３や子どもと発達や障害、虐待などに関する独自資料を用いる
・時間は、20～30分程度を目安に
・知識として覚えるよりも、現場に出た時の子どもの様子への感度を高め、対処時の判断材料、参考資料があることへの意識付けに重きを置く
・現代の子どもを巡る問題や、問題が起きたときの対処方法等を、受講者に考えさせた結果をテキストで確認するなど、自ら気づいたと思えるような学習展開を心かけたい

4. 講義の展開例

※４は、講義の展開例を紹介しています。正味90分ですが、講座の前後の時間や休憩も含めて120分で想定しています（以下同じ）

0分　開講式・ガイダンス（ねらい、期待等含む）

15分　【1】活躍の舞台となる子どもの居場所の理解

①子どもの居場所がなぜ必要か、どのような場所（事業）なのか

★テキストを使った解説

a. １章1(P4)→２（P4～5）の順で、かいつまんで紹介

②子ども達の応援の仕方が多様であること（応援の楽しみが様々にあること）

★テキストを使った解説

a. １章３（P5～7）を開いて、放課後子ども教室の具体的な展開例を共有
b. P6(2)②ボランティアとしての活躍部分を使って、多様な活躍の仕方（ボランティアのやりがい、楽しさ）があることを共有

30分　【2】ボランティアにもとめられる役割と良好な関係づくり

①様々な活躍の基本となる見守り・寄り添いの役割

★テキストを使った解説

a. ２章１（P8）を使って、【2】【3】の学習の意義を確認

②遊びを通して、心身の距離感が縮まる体験

★講師、スタッフによる、受講者対象の遊びの展開

ex かたもみ、協調グーパー、魂の握手、数合わせ等から適宜選んで実施

③遊びがコミュニケーションの仲立ちとなる理由（原理）を理解する

★③の振り返り及びテキストを使った解説

a. 数名の受講者に③の体験を振り返らせ、遊びがお互いの間の距離感を縮めることへの気づきを共有

b. 2 章 2（P9）で見守り・寄り添いの役割＝安心感、居場所感をもたらすこと、及び子どもとの距離感を縮めることが重要であることを確認

④会話の仕方で、異なる相手との関係が成立することの体験

★傾聴の疑似体験

ex. ペアで、一方が好きな料理の話をする、一方がリアクションをせずに聞く。役割交代後、相槌を打つ、うなずくなど相手の話を前向きに聞くパターンで実施。両者を比較。

⑤会話で認めているというサインを送る意義と原則を知る

★テキストを使った解説

a. 2 章 2(2) 遊び・楽しさを仲立ちに活用する (P9 ～ 11) を用いて解説

b. ④で気づいたことを、確認するようなスタイルで解説

80 分 【3】子どもをとらえる視点と基本的な対応

①子ども達の姿をキャッチする際の基本的な姿勢

★テキストを使った解説

a. 2 章 3(1) ①基本的な姿勢（P12）で解説

②今の子どもたちで気になる様子、問題の共有

★数名でグループをつくり、リストアップ。それを全体で共有（各グループベスト 1 の発表等）。

③立体的に子ども達をとらえる視点

★テキストを使った解説

a. 2 章 3(2) 立体的に子どもを捉える際に参考になる視点（P13 ～ 17）の要点を確認。上記②で受講生が共有した子ども達の問題点等と連動させて解説することにも留意したい。

b. 覚えるのではなく、子どもの様子に何かを感じたら振り返る資料という位置づけを明確に

④子ども達に安心感を提供する基本的な対応

★テキストを使った解説

a. 2 章 3(1) ②取り組み（P12 ～ 13）で解説

100 分 ふりかえり・質疑・次回の連絡

120 分 解散

「見守りボランティア」養成講習会内容
＜２コマ目＞

安心感を提供する見守り・寄り添いのポイント

1. コマのねらい

○一人の子どもや数名の子どもたちと打ち解けるための仲立ちとして、遊びを活用するための原理・原則を知る

2. 講義の焦点

①以下のような仲立ちとしての遊び活用の原理・原則
- 子どもとボランティアの動作や声が、同調・共鳴することで一体感が持たれる
- 同調・共鳴の状態にするために、同時発声・同時動作や段階設定の技術を用いながら遊びを展開する。

②原理・原則を用いて子どもの居場所で展開できるメニュー
- 対個人、対小集団それぞれ１、２メニュー

3. コマの構成

【1】遊び活用の原理・原則の理解

- テキスト３章 1. 仲立ちとしての遊び活用のポイント（P18～）を用いる
- 時間は 30 分程度を目安に。本時のもっとも中心となる内容
- 最重要な項目としては段階設定をあげることができる。少しずつ難しくなるハードルを乗り越えるように遊びを楽しむことで生じる「同じ釜の飯を喰った仲」的な感覚が､同調･共鳴が生じる土台となる。
- その上で、同時発声・同時動作の合図を積極的にかけることで仕草のタイミングがそろい、楽しさを共有している感覚（同調・共鳴）が強化される。
- 原理・原則を納得し、理解できるように、下記のように、体験と解説の連動に十分留意する。
  - ■ 体験：遊びを講師が展開（受講者に楽しませ、遊びの効果を実感させる）
  - ■ 解説：体験したことを振り返り、なぜ楽しめたのかについて原理・原則を押さえながら解説する（「講師がどのようなことに注意し、どのように遊びを展開したから、遊びが仲立ちになった」ということを体験時の様子を振り返りながら、テキストで確認する等）

【2】対個人との仲立ちとして活用できる遊びの習得

- テキスト３章 2(1)1 対１の仲立ちとしてのお薦め遊び（P21）や、活用できる素材の別途資料を用いる

・時間は、20 分程度を目安に。活用が予想される場面、状況も確認のこと
・受講者が、これなら自分ひとりでもできる、現場デビューの時に使えると思える素材を実習する（積極的なスキンシップを目的にしたもの中心で）
・受講者同士での実習を踏まえて、原理・原則を踏まえて遊びを展開できたかどうかについて講評する

【3】対小集団との仲立ちとして活用できる遊びの習得

・テキスト 3 章 2(2)1 対数名での仲立ちとしてのお薦め遊び（P22 ～ 23）や、活用できる素材の別途資料を用いる
・時間は、40 分程度を目安に。活用が予想される場面、状況も確認のこと
・以下、【2】と同様。実習の効果的な展開については、下記参照
■ 素材提供：講師が、受講者を対象に遊びの実演
■ 説　　明：上記実演で用いた展開案を提示。それを読み進めながら、原理・原則活用の実際等、実習するためのポイントを確認
■ 提供体験：展開案を読み込み、お互いを対象者にみたてて受講者同士で遊びの展開実習
■ 講　　評：説明したポイントを中心に、展開実習の講評をする

4. 講義の展開例

0 分　導入（本時のねらいとアイスブレーク）

①コマのねらい（コンパクトに本紙前頁 1，2 の確認）

②下記【1】【2】【3】で教材として用いる遊び体験（兼アイスブレーク）

ex「勝負！」→「指示握手」→「入れ替え遊び」→「鼻と耳つまみ」

20 分　【1】遊び活用の原理・原則の確認

①同調・共鳴の原理の確認

★テキストと、上記導入の遊び体験の振り返りを用いた解説

a. 遊び体験の振り返り（感想を聞く等）をまとめる形で、同調・共鳴の状態を通して、心身の距離感がぐっと短くなったことを確認（気づきを促す）
b. 3 章 1（1）身体と心の距離を近づける原理としての同調・共鳴（P18）を開き、受講者の気づきを評価するように解説

②段階設定の原則の確認

★「ポーズ合わせ」を用いた段階設定の体験と解説

a. ポーズ合わせの完成系（P20 塗りつぶし部分 1 ～ 4 を一連の動作として実施）の見本を提示。すぐ後で、受講生（ペア）に挑戦させる。※結果は上手くできない。
b. より楽しく、挑戦を重ねながら完成型にいたる段階を想定させる（数名のグループ単位で）
c. 上記 b の想定をまとめる形で、P20 塗りつぶし部分 1 ～ 4 を段階的に実施
d. 3 章 1（2）②段階設定（P19 ～ 21 上段）部分を用いて、段階設定の原理を解説

③同時発声・同時動作の合図の原則の確認

★「指示握手（P21 下段）」を用いた同時発声・同時動作の合図の体験と解説

a. 同時発声・同時動作の合図（セーノ）無しで、バラバラに実施させる

b. 教材体験の時（セーノの合図あり）を振り返り比較させる

c. 比較結果を用いながら、3 章 1 (2) ①同時発声・同時動作の合図 (P19) で、意義と実施のポイントを確認

50 分【2】対個人との仲立ちとして活用できる遊びの習得

★展開案を用いた解説及び実習（試行と講評）

a. 導入の遊び体験や上記【1】で用いた遊びのうち、1 対 1 の仲立ちとして実施した遊びの展開案（例えばポーズ合わせ、指示握手）を確認

b. 受講生を小グループにわけ、遊びを指定し、展開案を読み込ませる

c. 受講生がペアになり、ボランティア役と子ども役を交代しながら遊びを展開（試行）。小グループで試行の結果を振り返る。

d. 受講者の振り返りをまとめながら、原理・原則の実際の場面での活かし方を中心に講評

70 分【3】対小集団との仲立ちとして活用できる遊びの習得

★展開案を用いた解説及び実習（試行と講評）

a. 導入の遊び体験や上記【1】で用いた遊びのうち、対小集団の仲立ちとして実施した遊びの展開案（例えばポーズ入れ替え遊び、鼻と耳つまみ）を確認

b. 受講生を小グループにわけ、遊びを指定し、展開案を読み込ませる

c. 受講生がボランティア役と子ども役を交代しながら遊びを展開（試行。他のグループを対象に実施しても可）。小グループで試行の結果を振り返る。

d. 受講者の振り返りをまとめながら、原理・原則の実際の場面での活かし方を中心に講評

110 分　ふりかえり・質疑・今後の連絡（現場デビュー、勉強会等）

120 分　解散

「趣味活用ボランティア」養成講習会内容
＜2コマ目＞

趣味を活かしたメニューづくりと提供のポイント

1. コマのねらい

○大人が楽しんでいる趣味を教えるのではなく、趣味を生かして、子どもの健やかな成長につながる体験を提供するという基本的な考え方と方法を知る

2. 講義の焦点

①子どもたちが夢中になって挑戦を楽しみ、自分への自信やできることが広がったという実感を強く持てるようなメニューづくりの原理原則

・小さな達成体験を積み重ねることで、子どもたちが自分への自信（効力感）を高められるという原理

・いきなり難しいことではなく、簡単なことから難しい事へと挑戦をしながら自然に「小さな達成体験」が積み重なるように展開という原則

②自分の趣味をもとにして、子どもたちの体験のためにつくったメニュー

3. コマの構成

【1】メニュー提供の意義とポイント

・テキスト４章２、３（P26～30）を用いる

・時間は 10 分程度を目安に。【2】【3】を通して理解を強化

・受講者が、趣味を活かしたメニューをつくり提供できるように、今の子どもたちにとってのメニュー提供の意義を確認する

・特に、子どもたちの効力感を高めるための「達成体験」をどのように積み重ねられるかが大切であることを強調したい

・あわせて、子どもたちの効力感をより一層高めるためにも、挑戦している姿勢やよい結果について、積極的に褒めるといった、提供時のボランティアの姿勢や振る舞いについても確認したい

【2】メニューづくりの基本的な方法

・テキスト４章４（P32～34 上段）を用いる

・時間は 40 分程度を目安に（教材体験の時間を十分に取りたい）

・講師が既存のスポーツや伝承遊び等をもとにしたメニューを展開し、その後に解説を加える等、以下のような基本的なメニューづくりの方法を実感し、理解できるように心がけたい

・できることが少しずつ広がる階段をつくる（達成体験を重ねて効力感を強化する）
・効力感が高まった子どもたちが創意工夫を発揮できる段階も設定

【3】メニューづくり

・テキスト 4 章 5（P34 ～ 37）を用いる
・時間は 40 分程度を目安に
・自分の趣味をもとに、子どもたちが楽しみながら効力感を高める体験をするためのメニューをつくる
・現場ですぐに実践できるように、準備なども想定したメニューづくりを心がけたい

4. 講義の展開例

0 分　導入（本時のねらいを上記 1，2、テキスト P24、25 等を用いて簡単に確認）

5 分　【1】メニュー提供の意義とポイント

①メニュー提供の意義

★テキスト（4 章 2 メニュー提供の意義）を用いた解説

a. P26 塗りつぶし部分を読むなどして意義を確認。P27 塗りつぶし部分（経験者の声）でボランティアへの期待感を高めることも有効

②メニュー提供のポイント

★テキスト（4 章 3 メニュー提供のポイント）を用いた解説

a. P30 下部分の図を見ながら、P28 ～ 30 の本文を要約して伝える（ポイント確認）
b. メニュー展開時には、よい挑戦の姿勢や成功したことへの評価（褒める、周囲に伝える等）も大切であることを伝える
・できれば、【2】の教材体験で、講師が評価に気をつけながら展開することを予告したい

10 分　【2】メニューづくりの基本的な方法

①教材体験

★講師が伝承遊び等をもとに作ったメニューを用いる

a. 紙飛行機を用いたメニュー（P32 図参照）を実施
b.【1】の補足として、受講生の取り組みを褒めたり、他に伝えたりといった評価をしていたこと（そのことによって効力感が高まったこと）を確認

②メニューづくりの基本的な方法

★①の教材体験とテキスト（4 章 4）を用いる

a. P32 図を用いて、教材体験の振り返り
b. P32 ～ 33 の本文を見だし中心に確認しつつ、基本的な方法を共有

50 分 【3】メニューづくり

①小グループにわかれてのメニューづくり

a. 共通にする趣味のタイプごとにグループをつくる

・できれば事前に趣味を把握しておき、グルーピングをすませたい）

・現場デビュー時一緒にメニューを提供するチームという位置づけができればなお良い

b. 4 章 5 の例（P34 図、P35 図、P36 図）を紹介し、メニューづくりの方法を確認

c. グループで話し合いながら、ひとつのメニューをつくってみる

・スポーツ系ならば実際に身体を動かしながら、ものづくり系ならば実際に素材をいじりながら等、机上の議論にならないように誘導したい

・現場デビューのための学習という点を重視するならば、もととなる活動（ニュースポーツやクラフト　等）を講師が決めておき、グループでメニューづくりをさせることもお薦め

・講習会で作ったメニューで現場デビューをした後に、その経験を踏まえて、勉強会で一人一人にあったメニューづくりをさせることも有効

②プレゼンテーションと講評

a. つくったメニューについて、他の受講者にプレゼンテーション（説明、試行ではない。講義の 1、2 時間増加させられれば、実際に他の受講生を対象にメニュー提供の試行をすることをお薦めしたい）

b. 基本的な方法の確認を中心とした講評

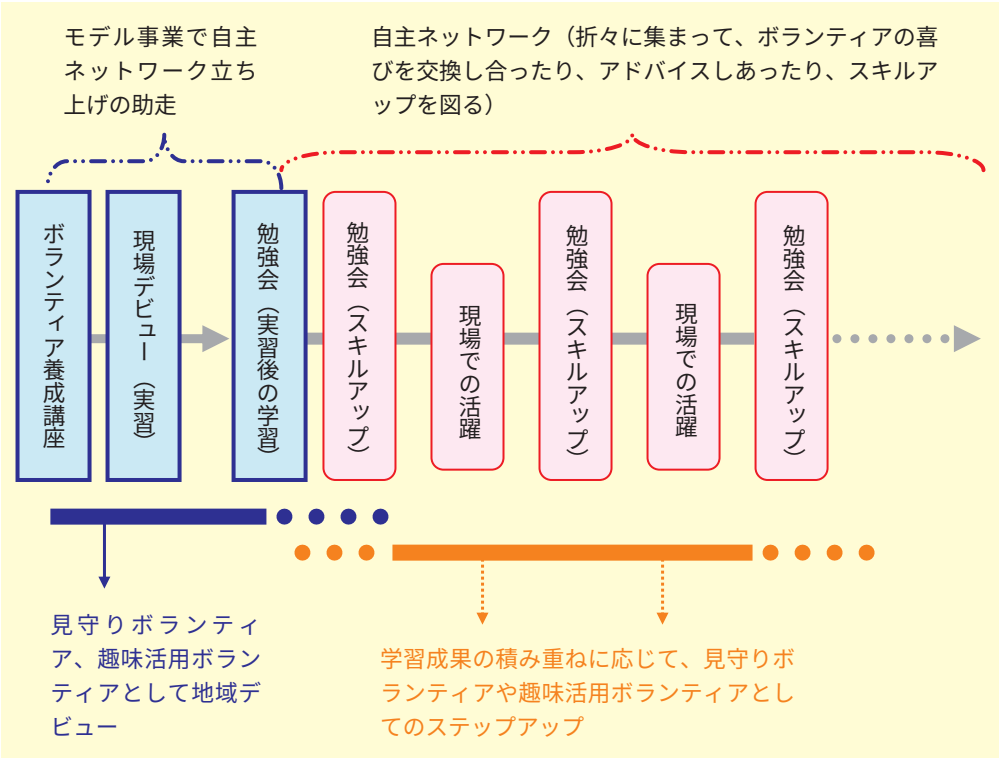
110 分 ふりかえり・質疑・今後の連絡（現場デビュー、勉強会等）

120 分 解散

勉強会の進め方

実際の現場（放課後子ども教室）で、学習した成果を活かしながら子どもたちと関わる現場体験をした後、現場体験を踏まえ、学習した内容のクリニック等を目的とした勉強会を開催します。同時に、ボランティアによる自主ネットワークの立ち上げの第一歩として開催します。

○自主ネットワークづくりのきっかけ、ネットワークの中身としての勉強会



○お薦めの勉強会の内容

・初回の勉強会は、現場デビューの経験を踏まえ、養成講座で身につけた知識や技術を深めるタイプがお薦め

・ネットワークの中身としての勉強会では、新しい知識や技術、遊びを身につけ、できることを広げていくタイプがお薦め

○学習修了の証（修了証）活用のメリット

・養成講座や勉強会での学習意欲を高める

・現場デビューの意欲や、以降の活動の意欲を高める

・同じ釜の飯を喰った仲的な仲間意識の共有（皆さんの新しい・頼もしい仲間へ）

○初回の勉強会の基本構成（例）

①現場デビューの感想交換

・やりがい（効力感）が強化され、学習意欲が高める

・各自の足りないところ（学習課題）を自覚する

②現場で使える新しい遊びを教材にした、知識や技術の再確認（クリニック）

・現場で活きるものとして知識や技術を改めて確認

・現場で子どもたちの応援をするために「できる」遊びが増える

③修了証の授与

④自主ネットワーク発足のお誘い（できれば結成式）

特定公益増進法人
財団法人　日本レクリエーション協会

〒101-0061　東京都千代田区三崎町 2-20-7　水道橋西口会館 6F
TEL：03-3265-1244　FAX：03-3265-1253
URL　http://www.recreation.or.jp
E-MAIL　soshiki@recreation.or.jp